

結果報告 ①

2210117 斐川一畑大社線道路災害復旧工事(3災681号)



けんせつ小町パトロール隊として、安全衛生面のパトロールを行いました。また、例年より猛暑日が続いているので熱中症対策についても確認を行いました。

現場事務所は、清掃が行き届いており、ごみは分別されていて清潔にしておられました。特に水道がないなかで水回りがキレイでした。飲料水としてウォーターサーバーを設置しておられました。会議用テーブルや個人の机の上は整理整頓ができており、書類も適切に保管されていました。

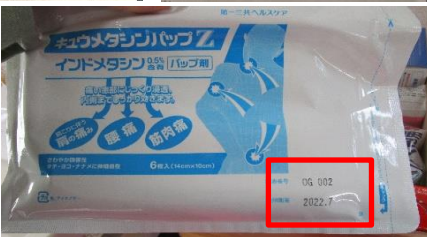
現場事務所周辺は、コンテナや資材置場がありました。海風が強く吹き付けるので、飛散防止対策としてネットを設置しておられました。

【工事進捗率: 14%】

工事概要の説明



この工事では、週休2日制度を導入し施工しておられました。休日は休養できているとのこと。体調管理に気を配っておられました。



【指摘事項】救急箱の中にインドメタシン(湿布)がありましたが、使用期限が切れていましたので処分して下さい。



【指摘事項】現場事務所に担架明示がありました。担架は室内にはありませんので、担架明示を外して下さい。



現場事務所付近の資材置場に置いてある鉄板は、盗難防止対策としてチェーンで固定して施錠されていました。



現場事務所のトイレには目隠しフェンスが設置してありました。女性には嬉しい配慮です。





〈現場および現場周辺の様子〉



この現場は、法面保護を行った箇所よりさらに高い位置から落石が起り、落石による影響で防護柵や道路が崩壊した箇所を復旧する工事です。主要工種は法面工であり、落石が起こった箇所に法枠工を施工します。現場では、県道から直高70mの斜面で掘削した土砂を県道まで落とし、それをダンプで場外へ搬出されました。施工箇所周辺は狭いため、施工に付随する設備は施工箇所から離れたところに設けられていました。今回、施工箇所には立ち入れませんが、厳しい現場条件の中で施工しておられることがうかがえました。



セーフティクライマー工法



ウインチ



モノレール



落石防護柵設置



落石防護柵(緩衝式)



落石防護柵(ポケット式)



現場は、急斜面を掘削する工法として、セーフティクライマー工法(無人掘削)を採用しておられました。バックホウを立木とウインチで固定し、遠隔操作で掘削しておられます。掘削した土砂は高い位置から下の道路へ落とすことから、道路へさらなる被害が及ばないように、掘削箇所から道路までの間に3段の落石防止柵(上方の2段は緩衝式、下方はポケット式)が設置されていました。これにより、緩やかに土砂を落とすことができています。施工箇所までの資材運搬は、急勾配で高い位置へ運ぶため、離れたところにモノレールを設置しておられました。道路上では、舗装面を敷鉄板で養生し、架空線に防護管を設置しておられました。また、架空線注意喚起や落石注意喚起をカラフルな旗で明示し、事故防止を図っておられました。



**【指摘事項】**  
作業員が大型土壌の上を歩いていた。すぐ横が崖ですので転落しないように安全対策を検討して下さい。

熱中症対策として、休憩スペースの整備、飲料水・塩分の配布、熱中症注意喚起ポスターの掲示をしておられました。



今年は異常気象の影響で、豪雨災害や熱中症災害が起きやすくなっています。安全意識をより一層高めていただき、無事に工事を完了されることを心から願っています。皆様ありがとうございました。ご安全に！！